

<書面開催における委員ご質問・ご意見・回答>

No	委員氏名	質問・意見	回答	回答館
議案1.令和3年度公民館事業実施報告について(資料1)				
1	井上 委員	中央公民館のババサロンの反響はいかがでしょうか	ババサロンについては夫婦と子ども7組の参加がありました。講座中は父親が子どもと一緒に講座を受講し、その間、母親は別室で講座を受講するという形式での実施でした。子どもから解放された母親は子育てに関する学習や参加者同士の意見交換等を楽しんでいました。一方で父親たちは、子どもがいる中での学習・意見交換となりましたが、子どもがいることで場が和んでいるためか、活発なコミュニケーションが見られました。この経験を活かし、父親の子育て参加を効果的に促す試みを模索していきます。	中央公民館
2	笠原 委員	まん延防止等重点措置の中、計画通りできなかった事業もあったかと思えます。大変ご苦労様です。 関屋地区公民館の新潟大学との連携講座(「文字と書道に親しもう」「わくわくランド」)がどんな内容なのかお聞きしたいと思います。	「文字と書道に親しもう」は、岡村浩教授の指導のもと20有余年に渡り夏休みに開催しています。文字の成り立ちをお話いただくことから始まり、文字を書く楽しさが溢れた時間を過ごすことは、キーボードで文字を入力するより何倍も有意義なはずで、デジタル化が進む今だからこそ、子どもたちには、日本古来の文化である書道から、より多くのことを学んでほしいと思います。 「わくわくランド」は「いろんな体験をしよう!他の学校のお友達もできるよ!」を合言葉に、子どもたちの週末を有意義なものにしたいと年に5回程度のプログラムとしています。新潟大学児童文化研究部の皆さんからは、この中の「大学生と遊ぼう」を担っていただき、人形劇やゲームで会場を盛り上げていただきました。	関屋地区公民館
3	塩田 委員	コロナ禍の中でさまざまな工夫を凝らしながら事業運営を行っていただき、ありがとうございます。 子育て世代でのオンラインを取り入れた家庭教育学級など、青少年や若い世代が公民館をもっと知ったり利用したりできる新しい取り組みにつながっていくことを期待しています。	オンライン講座については、コロナが終息するか否かによらず、今後の公民館の事業展開の幅を広げるために必要不可欠であると考えています。ご意見のとおり、活用の仕方によっては若者の参加を促すことにもつながる可能性も持っていると思われしますので、積極的に経験を重ねることで、公民館職員のスキル向上を図っていきたくと考えています。	中央公民館
4		・「基本施策1.人づくり、地域づくり～」の関屋地区公民館実施「ランナーだらけの公民館in関屋地区公民館」について コロナ禍の流れもあり、ランナーは増えているように思う。わかりやすくキャッチー、需要のありそうなところに目をつけたのが良いと思う。参加したいと思わせるネーミングもGood。	「ランナーだらけ」は、ランニングを趣味としている市民の交流・情報交換の場を設けるとともに、若い世代の公民館の利用促進と知名度の向上を図るために、今年度、初めて開催しました。走ることそのものよりも、趣味を楽しむためのコミュニティー形成に力を入れたという思いで応募を行い、5名の方の参加をいただきました。受講者の出席率・満足度は高かったことから、令和4年度は開催の周知方法を工夫して、さらに盛り上がる講座になればと考えています。	関屋地区公民館
5		・「基本施策1.人づくり、地域づくり～」の中央公民館実施「学生連携事業」について 公民館を一番利用しない年代をターゲットにした事業のようなのでどのような展開になるのか期待。	理想としては、大学生がサークル活動のように気楽に公民館事業に参画してもらえるような環境を実現し、かつ大学生の企画・運営する事業が地域の多世代交流につながるものになりたいと考えています。公民館としては、地域・学校・家庭が抱える課題解消に向けて共通する取組みは、地域住民間の関係性強化を図る交流事業であると考えていますので、大学生との連携を糸口にして、若者たちと大人たちとの交流を模索していきます。	中央公民館
6	司山 委員	・「基本施策2.家庭における～」の中央公民館実施の子育て、プレママ・パパ関連事業は対象が成人が多いけれど、中学生や高校生などこれから親になる世代に子どもを産み育てることを学んでもらえる機会があるといいなと思う。近年の子ども虐待ニュースを見ると自分本位で子育てしている親が多いと思う。子どもの頃からの教育が必要だと思う。	学生に対し、生命の誕生や子育てについてのイメージを育む学習機会を提供することは有意義であり、中央公民館でも学校と連携し「いのちの授業」と題し実施しているものもあります。子どもが大人へと成長する際の人格形成については、学校・家庭・地域がそれぞれ重要な役割を担っていますが、公民館はそれらの取り組みを社会教育の観点から支援することで、青少年の健全育成や地域の担い手育成、地域活性化に取り組んでいきます。	中央公民館
7		・「基本施策2.家庭における～」の中央公民館実施の「外国人ファミリーのおしゃべりサロン」について。 海外の方が新潟にも増えているので、生活の不安をサポートできる企画はとても良いと思う。 宣伝(広報)をどうしているのか気になる。	今年度は残念ながら、コロナによる休館により中止となりました。当講座の対象者は外国籍の方であり、募集についても手探りの状況でした。通常の情報発信(区だより・チラシ等)では、情報が届きづらいことは予想していましたが、クロスバール内に事務所がある新潟市国際交流協会(国際友好会館)と連携し、その関係者による直接的な声かけ等で集める予定でした。そして次年度はその前年度参加者にインフルエンサーとなってもらい声かけをしてもらうという「ロコミ」による情報拡散を狙っていましたが、今年度は中止となりましたが、来年度は仕切り直して実施する予定です。	中央公民館
8		「基本施策2.家庭における教育力向上の支援」では、早くから仕事復帰される方が多く、土曜日の講座の参加人数が多く、今後も土・日開催の必要性を感じました。	子育て期の保護者を対象とする講座については、早期職場復帰される方も増加しているため、平日昼間の開催以外に、土日・祝日等での開催の必要性が増していると考えております。また、父親の参加を促すためにも平日昼間以外の講座実施が有効であると考えています。今後は開催日時以外にもオンラインでの参加を可能にすることで、より参加しやすい環境を整えていきたくと考えています。	中央公民館
9	渡辺 委員	「基本施策4.高齢者の学習支援や社会参加の促進」の中の事業の中止や一部中止があり、コロナ禍で残念だったと思います。	コロナの影響を受けた講座は数多くありましたが、公民館は高齢者が参加しやすい事業が多くあるため、必然的に高齢者対象事業の中止が多くなってしまいました。また、高齢者への感染リスクを懸念し、意図的に中止としたものもあります。まだまだ高齢者のリモート参加型の講座を展開するには課題も多いため、オンライン講座への切り替えもままならない状況です。今後は高齢者のデジタル関連への理解を進める取組みにも注力する必要性を感じています。	中央公民館

No	委員氏名	質問・意見	回答	回答館
2.令和4年度公民館の主な予算について(資料2)				
10	司山 委員	「子ども体験活動・ボランティア活動推進事業」について。 中央公民館の前年度(令和3年度)予算が72,000円だったのが、令和4年度は37,000円になっている。約半分になっているのはなぜか？	公民館の令和4年度事業に関する予算は「公民館事業費」「家庭教育振興事業費」「子ども体験活動・ボランティア活動推進事業費」の3つがありますが、全市的な予算縮小の流れもあり、事業に関する予算も大幅に削減となりました。限られた予算を市内25公民館でバランスをとりながら配分した結果、中央公民館の子・ボラ事業費の減額という結果になりました。当事業の目的は「地域の大人たちとの交流、異学校異学年交流による社会性・協調性を育む」人格形成にあり、大変重要な取り組みであることは認識しておりますので、工夫を重ね効果的に事業実施できるよう考えていきます。	中央公民館
3.令和4年度新潟市公民館事業の基本方針について(資料3)				
11	司山 委員	地域力をあげることがこれからの社会に必要となるように思います。 公民館事業を通じて、幅広い世代の交流を実現し地域力を向上できるような企画・取り組みができたと思います。	「地域力」を向上させるには様々な切り口があると思いますが、現在の学校・地域・家庭が抱える課題には「地域における人間関係の希薄化」が共通して大きく影響していると考えています。公民館の役割には「地域活性化による地域づくり」もありますので、当然ながら地域の多世代交流を図っていくことが最重要課題であると考えています。ただし、公民館単独でできることは限られているため、地域や学校と連携することが不可欠です。特に学校は地域多世代交流に関しては、他と比較にならないほど大きな力を持っていますので、学校がエンジンとなり地域づくりにあたる仕組み作りを支援することが公民館に今求められていると感じています。	中央公民館
12	藤瀬 委員	「赤ちゃん誕生おめでとう」事業は全市に広がってほしい(他地域でも開催されていますが)と考える、とても意義のある事業だと感じます。予算額が半減していますが、事業内容に支障がなないように運営していただけたらと思います。R3は執行額0円でしたが、他から資金が出ているのですか？思い出やつながりづくりのため、必要経費は活用する価値があると思います。	「赤ちゃん誕生おめでとう」は、地域の皆さんの熱意でご厚意で実施しており、今年度も例年並みの内容で開催しています。今後も予算に係わらず継続して開催していきたいと考えています。なお予算については、公民館全体での感染対策の費用の一部として支出しています。	関屋地区公民館
4.令和4年度公民館事業計画について(資料4)				
13	井上 委員	新規事業計画がたてにくいことはよく理解できます。同時に新型コロナウイルス感染拡大が始まり、2年になり、現状が「新たな別の日常」となることを踏まえた施策検討も考えていかざるを得ないのではと思います。リモート講座・企画を前提とし、それでいてライブも対応できるような事業を(インフラ整備も含め)ご検討いただきたいと思います。	ご意見のとおり、従来の形式での公民館講座実施が大変難しい状況となっています。オンライン講座の必要性も高まっており、公民館としてはコロナが終息するか否かを問わず、積極的に取り入れていくべきと考えています。現在は少しずつ経験を重ねている段階ではありますが、会場に集まった受講者とリモートの受講者が同時に講座へ参加できるハイブリッド形式の講座も少数ではありますが実施できるようになりました。今後もインフラ整備を含め、多数の公民館でオンライン講座が展開できるよう、知識・技術の向上を図っていきます。	中央公民館
14	塩田 委員	赤ちゃんから高齢者まで「生涯学習」の理念に基づいた事業計画に公民館の魅力を感じています。一利用者としてこれからも公民館と連携した活動ができるように協力させていただきたいと思っています。	その時の社会や地域の状況により、注力すべきポイントは変化していくことと思いますが、市民の皆様へのニーズにかなう事業を実施していきたいと考えています。	中央公民館
15		「基本施策3. 青少年の生き抜く力～」の中央公民館実施の「若者向け事業」について。 20代、30代の参加の呼びかけをいかに行うかが気になる。	公民館の情報発信手段については、主にチラシ設置や区だよりへの掲載に頼ることが多いです。最近ではLINEを活用した情報発信にも取り組んでおりますが、若者世代の目に公民館からの情報がとまることはほとんど無いため、新規参加者を集めることは大変難しいです。中央公民館では、将来的に学生連携事業で連携している学生の情報発信力を活用させてもらい、若い人たちを集めていきたいと考えています。すでに発信力を持っている人々を活用した情報発信という手法は一考の価値があると思っています。	中央公民館
16	司山 委員	ICTの活用法や使い方の講座なども今後のニーズとして増えそうな気がする。 高校生・大学生がレクチャーする高齢者向け(?)のICT活用講座のようなものがあったら良い気がする。	オンライン形式での講座は、今後の公民館事業実施においての命題となっていますが、まだまだ市民のオンライン講座参加へのハードルが高いことが、これまでの経験でわかってきました。高齢者はもちろん、20代・30代の方たちでも意外に参加しづらいと感じている方が多いようです。公民館としてはオンライン講座実施だけでなく、市民のICTへの理解を進める取り組みも必要と感じており、ご意見のような講座のあり方も選択肢のひとつであると認識しています。ちなみに中央公民館では高齢者向けのスマホ講座を開催しましたが、当公民館の利用サークルの方々と連携しサポートをお願いしています。民間で取り組んでいることもあり、行政がどこまで足を踏み入れてよいのかという問題もありますが、その時々々の状況を見ながら、公民館としてできることに取り組んでいきたいと考えています。	中央公民館